



昔の話

● 常盤 達雄

国労東日本本部 教宣部長



私が国鉄に就職したのは昭和57年4月。当時の東京西鉄道管理局の東京西学園（新宿西口にあった）を卒業して、五日市線の武蔵五日市駅に配属されました。駅長が迎えにきていて、連れられて行く途中、生まれて初めて五日市線に乗って、風景がだんだん寂しくなってゆき、武蔵引田駅～武蔵増戸駅あたりでは、地平線まで畑（今でもだが）の中を走り、ホントにここは東京都か？とんでもない所に来てしまったと思いました。

運輸係の仕事は当然改札と雑用ばかり。今は環境アクセスさんに委託している清掃作業も当然私の仕事。当時は禁煙などという言葉は無い時代。ホームの柱の大半に吸い殻入れが括り付けてあり、数が多く回収が大変でした。当時は小荷物扱いもおこなっていて、その補助もやっていました。この時期はまだ地球温暖化前だったので、秋川渓谷の入り口にある武蔵五日市駅は、1月～2月にかけての朝は－7度くらいになり、朝の改札業務がつかった。

私が配属された当時の車両は103系や101系で、電車の前後の行先方向幕を手動で回すのも駅員の仕事でした。（当時の青梅・五日市線はほとんど冷房車が無く、行先方向幕は電動になっていなかった）昭和57年11月で五日市線の貨物列車が無くなり、昭和59年には小荷物扱いが廃止。昭和60年には、それまで券売機すら無かった駅に、自動券売機を導入し、合理化を進め、元々、助役・出札・改札・小荷物・運

輸係の5徹あった駅を、小荷物担当を廃止、次いで運輸係を廃止し、出改札兼掌になりました。合理化は進みましたが、その頃武蔵五日市駅にいた職員は、昭和20年に職員の多くが戦争に行かされ、職員が不足。中学生が駅に勤労働員され、そのまま国鉄職員になった方が何人もいて、ちょうど退職期を迎えて（当時の退職は55歳）むしろ職員が足りなくなっていたため、私も出札をやるようになりました。当時の出札はすべてがアナログで手作業で、発売も売上の締切集計もすべてソロバン！ 出札をやりたければソロバンを覚えてこい、という時代で、電卓などという高級なものはありませんでした。

JR東日本に移行後、何年かしてL型というマルス端末が出札に入りました。小駅向けのこの安い端末は、駅名入力がトニムイ（武蔵五日市駅）やトミトウ（東京駅）といった略カナ入力だったため、社員から不評で、あっという間にME型端末に置き換わりました。

平成8年に武蔵五日市駅は高架化されましたが、北側にあった広い空き地に線路をずらして建設されました。この空き地は、元々蒸気機関車時代の武蔵五日市機関区の跡地で、ここを活用して線路をずらし、駅前広場が大きく整備されました。駅はきれいになりましたが、今の武蔵五日市駅は観光地の駅なのに、JESSへの委託で泊まり勤務1人のみの寂しい体制になってしまっているのは何とも残念です。